

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 11 月 16 日 (2006.11.16)

【公開番号】特開 2005-140288 (P2005-140288A)

【公開日】平成 17 年 6 月 2 日 (2005.6.2)

【年通号数】公開・登録公報 2005-021

【出願番号】特願 2003-379117 (P2003-379117)

【国際特許分類】

F 1 6 F 15/36 (2006.01)

C 1 0 M 105/04 (2006.01)

C 1 0 M 105/50 (2006.01)

C 1 0 M 107/08 (2006.01)

C 1 0 M 107/32 (2006.01)

C 1 0 M 107/38 (2006.01)

C 1 0 M 125/02 (2006.01)

C 1 0 M 147/02 (2006.01)

F 1 6 F 15/31 (2006.01)

H 0 2 K 7/04 (2006.01)

C 1 0 N 20/02 (2006.01)

C 1 0 N 40/02 (2006.01)

【F I】

F 1 6 F 15/36 A

C 1 0 M 105/04

C 1 0 M 105/50

C 1 0 M 107/08

C 1 0 M 107/32

C 1 0 M 107/38

C 1 0 M 125/02

C 1 0 M 147/02

F 1 6 F 15/31 E

F 1 6 F 15/31 F

H 0 2 K 7/04

C 1 0 N 20:02

C 1 0 N 40:02

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 9 月 29 日 (2006.9.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

すなわち、前記スピンドルモータ部 13 の回転数が、予め設定された適宜の作用回転数に達したときに、上記回転体の重心位置とは逆の方向、つまり、上記回転体の回転アンバランスを打ち消すように、図 2 中の 2 点鎖線で示した半径方向外方位置に向かって移動するように質量調整がなされており、それによって、上記回転体の回転バランスがとられ、該回転体の振動が低減されることにより上記回転体の自動調心が行われて、回転の安定化が図られるようになっている。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２８】

より具体的には、上記回転補助部材２０ｅの外周側には、平面状の球体作用面２０ｆ，２０ｆ，・・・が複数設けられている。これら平面状の各球体作用面２０ｆは、上述したバランス球体２０ｄに対して摺動または滑動して摺接するように配置されていて、回転起動時を含む低速回転の領域において、当該回転補助部材２０ｅの各平面状球体作用面２０ｆが上記各バランス球体２０ｄに摺接することによって、上記各バランス球体２０ｄに対して回転方向である上方側に向かって緩和された作用力が付与されることとなり、それによって上記各バランス球体２０ｄが円滑に持ち上げられていく構成になされている。